



トンボ池付近の昔の景色

トンボ池の前に立ち止まり、ちょっとのぞいてみましょう、左からわき水が流入し、植物が茂って、トンボが飛んでいます。トカゲがちょろちょろしています。草がボサボサしているけど、自然の池だなあ、と思いませんか。自然とはこういう場所ですね。

ここは、城址の斜面樹林の下にあり、奥はちょっと薄暗い。以前は、ため池が梅林の中ほどまであり、大きかったそうです。ため池にそそぐ流れがあり、流れのそばに田んぼがありました。田んぼにはホタルはいなかったがサワガニがいたそうです。トンボ池を見て、昔のため池を思い出すといたった人もいました。下の写真は本橋金蔵さんが撮影した昭和40年(1965年)頃、大門地区の区画整理が始まる前、今の美術館駐車場の上から美術館方面(トンボ池近く)の風景です。



みなさんには、トンボ池はどう映るのでしょうか。 「水が汚い」ですか

湧き水の池でも、「汚れのもと」が入ってくると汚れます。

「汚れのもと」は何か、今の季節では木の实、斜面の森から大量に落ちてくる木の葉や種・・・美しいものも水に落ちて腐ります。草も枯れて腐ります。ザリガニの糞（ザリガニは水を汚す原因の一つです）、よく来るカルガモも水の中で糞をします。ザリガニ捕獲用のエサも汚染源ですね。

秋冬には頻りに落ち葉などをすくいます。刈れた草も刈ります。一年を通して底にたまったヘドロを掻き出しています。それでもヘドロがたまり、沼のようになってきました。ヘドロは重くて掻き出しはけっこう大変です。ヤゴがいたらヤゴも泥と一緒に掻き出してしまうかもしれません。自然相手の管理作業、どうしたらよいか悩んでいます。汚い水にもご容赦ください。

ところが

赤塚ため池の水が透きとおっている！

驚き!!! 以前はひどく濁っていた水が透き通っています。藻が繁茂して、釣りの邪魔になるからと、池の外に放り出されています。信じられない状況です。



池の中で生えているのが藻のオオカナダモです。ときどき誰かがすくいあげています。見せてもらおうと藻に絡んだ生き物（エビ）を池に戻していました。

釣りをしている人によると、池の中に野ゴイがいて、ザリガニを食い尽くしたようで、ザリガニがほとんどいなくなったそうです。環境省のマニュアルにはコイ（やブラックバス）がいる環境では、ザリガニは少ないと書かれていました。コイは池底にいる生物を食べるので、ザリガニだけでなくオタマジャクシも育たないそうです。

コシアキトンボが飛んでいます。ため池の杭にヤゴの抜け殻がいくつもあり、トンボが住み着いていることがわかりました。

釣巻さんが子供の頃、ため池でザリガニ釣りをしたそうです。ザリガニはいっぱいいたけど、トンボもいたと言います。トンボが飛んでいるだけでは、ヤゴはいたのか、ヤゴが羽化したのかわかりませんが、今年杭についていたヤゴの抜け殻は、ため池にトンボが産卵し、ヤゴが水の中で無事に暮らし、羽化してトンボになって飛び立ったことの証明です。ため池はトンボがすめる池になったのですね。

ため池にはトンボが幾種類も来ているようですが、止まるところがないのでじっくり観察できませんが、8月末 コシアキトンボの他に、赤トンボ（トンボ池にも来たナツアカネ）、チョウトンボがひらひらと飛び、水草に産卵していたシオカラトンボのオスのようなトンボ（コフキトンボ？）がいました。

トンボ池にあるような水草を植栽すればいいと思いますが、水草が茂ると釣りの邪魔になるからダメかもしれません。トンボ池のように篠竹をさしておくといいのでは？。トンボは竿の先に止まるのが好きです。

いろいろなトンボがため池で産卵し、ヤゴが育ち、羽化すれば素晴らしいですね。



左はコシアキトンボヤゴの抜け殻(2025年6月)。上はかなり前に撮影したコシアキトンボの死骸(腰が白く空いているように見えるのが名前の由来)



写真左は、これもかなり前にバッタ広場で撮影したチョウトンボです。

トンボ類は水辺ばかりでなく、城址の草地や樹林地でもよく見かけます。

かつて、ため池にはザリガニがいっぱいて、子供達がザリガニ釣りに来ていました。ザリガニは斜面下の水路（ホタルの水路とっていたところ）に侵入し、蛍の水路に穴を開け、水もなくなり、ホタルもなくなりました。昔ホタルの鑑賞会もあったのですよ。

何年もたって、その水路を利用して、住民参加でつくった自然の池（トンボ池）にザリガニがため池から侵入して、私たちを悩ませてきました。それが今やトンボ池はザリガニ汚染源になってしまった。赤塚トンボ池のザリガニをしっかりと駆除して（本当にできるのか不安ですが）、あたり一帯が自然の水環境になったら素晴らしいですね。

そして再びトンボ池の話

シコシコとザリガニ捕獲を続けています。猛暑なので公園に来る人もわずか。「何をしてるんですか」と聞かれて、ザリガニの話をして、駆除していることお話しします。週に3~4日出動します。8月は18回作業をして、大から小まで1640匹捕獲しました。減る気配もなく、暑かったです。9月はペットボトルのトラップがうまく機能しなかったこともあります。減ったような感触。7月末にトラップにヤゴが入っていました。9月中頃、トンボ池に子供が入ってトラップを放り出したり、ザリガニを持ち去る（または放流する？）事件？が頻発し、9月の捕獲量は減って467匹でした。

さて、9月に入ってリスアカネが飛来、18日にはメスも来て産卵。25日にはアキアカネが来ました。

もしかして、来年はトンボの羽化がみられないかなあ、とちょっとだけ期待しています。

（坂本 郁子）



上:トラップに入っていたトンボのヤゴ

左:竿に止まるリスアカネ
（布施さんがヤゴの羽化用に立てた竿はトンボたちのお立ち台）

トンボ池によく来るのに 注目してもらえない虫

2, 3年前から、トンボ池の水面を飛びまわり、ときどき水にチャポンとする虫が来ていました。不思議な虫でした。オオスズメバチが体を冷やしに池に来るといわれて、おそろおそろ見ていましたが、しばらくして当のオオスズメバチが浅い水たまり浸かっているのを見ました。となると、水の上を飛び回ってポチャンとする虫は、スズメバチではありません。次に水に産卵する虫をあれこれ想像しました。

昨年、飛んでいる虫を網で取ってもらいました。スズメガ科のホシホウジャクでした。ネットではホシホウジャクが水浴びする動画もありました。蛾が水浴びするなんて考えられませんでした。虫の人生もいろいろです。

蛾は、昼間どこかに止まってじっとしているような印象ですが、ホシホウジャクは昼間非常に行動的です。トンボ池の近くにアベリアという花木があり、春から秋まで花が咲き続けますが、ホシホウジャクはこの花の蜜を吸いに来ます（写真右）。アベリアの筒状の花に、ストローのような口を差し込み、枝に止まらずにホバリングしながら蜜を吸うのです。すごいですよ。見ていて飽きません。ホバリングしながら花から花へと次々と移るので、カメラが追い付かず、写真が撮れません。



トンボ池のフェンスに絡むツル植物（ヘクソカズラ）にホシホウジャクの幼虫がいました。5cm程の大きな芋虫です（写真下）。気持ち悪いと思う人もいるかもしれませんが、無害です。右下は三角形になって止まっている写真です。



先日はフェンスに絡まる別のツル植物（ヤブガラシ）の葉を食べるセスジスズメという蛾の幼虫もいました。スズメガ科の成虫は大きくて三角形、幼虫は大きな芋虫でお尻に角（尾状突起）があります。成虫も芋虫も大きいので見つけやすい蛾です。（坂本郁子）



バッタ広場の手入れをしてから 木の実の観察(9月27日)

9月の末だというのに暑い日でした。城址は草刈りが済み、黄色っぽいトンボが群れで飛んでいました。バッタ広場の前の草地は、黄色いキンミズヒキがいっぱい咲いていました。チカラシバの群落でいてほしいところです(左下)。

広場内はその都度、区域を決めて集中して草を刈っています。それ以外はそのままです。今回は、手前側のササぼうぼうのところを集中して刈りました。

全体を見ると、オギはロープで保護したにも関わらず株は貧弱で花もなし。いたるところにキンミズヒキの花、しそ科(イヌコウジュらしい)の花が咲き、クズのジャングルにはクズの花が咲き終わり、ガガイモの実(右下)がなっていました。キリギリスの仲間は見つけられず、オオカマキリが1匹。



早めに終えて、沖田宅跡地の公園に移動し、ドングリ観察シートを見ながらドングリさがし。シラカシ、スダジイが多い。沖田さんは北風よけに、カシを植えたとおっしゃっていましたが、一人ばえのクスノキやアカガシ?の若い木もあった。目立ったのはムクロジの実、種は羽子板の羽根の実につかわれますが、果肉はサポニンが多く昔は石鹼の代りになり、種は数珠になったと清水さんの話。

コナラ、クヌギはなく、帰路、郷土資料館の裏でクヌギのドングリと麦チョコのようなエゴノキの種を拾いました。トンボ池の前にあるエゴノキにはまだ殻をかぶった実がたくさんついていました。

さて、「実りの秋」です。これからいろいろな木や草の実を観察し、種を集めて、どんぐりまつりで紹介します。遊びに来て下さい(坂本 郁子)。

東京都公園協会主催

「ボランティアスキルアップ講習 団体運営編」に参加して

ボランティア団体の活動・運営・人の募集・継続等について学びました。

参加者30名程が5~6名のグループに振り分けられ講義を受けながら話し合い、発表していく座学形式でした。

グループの話し合いの中で、バッタ広場とトンボ池の保全活動をする理由を分かりやすく説明できなかったことに勉強不足を感じました。

一方で会報を発行している会は少なく継続していることに感心され嬉しくなりました。

ボランティア経験が浅い二人ですが良い刺激を受けました。

(小林悦子・佐藤克子)

活動・観察記録(8月~9月)

トンボ池

ザリガニ捕獲(2107匹)。キチョウ、ヒメジャノメ、ゴマダラチョウ、イチモンジセセリ、ムラサキシジミ、アカボシゴマダラ、アカボシゴマダラ蛹、アオスジアゲハ、サトキマダラヒカゲ、コムシジ、タマムシ死骸、オオシオカラトンボ、オオシオカラトンボ産卵、ナツアカネ、リスアカネ、リスアカネ産卵、アキアカネ、ホシホウジャク、ホシホウジャク(幼)、セスジズメ(幼)、オオウンモンクチバ、ナカグロクチバ、ジョロウグモ、オオカマキリ、ツチイナゴ、オンブバッタ、ハナバチ(クロマルハナバチ?)、アミガサハゴロモ(外来)、コオロギ鳴く、

バッタ広場

ツバメシジミ、ルリタテハ(幼)(城址)、クマバチ、オジロアシナガゾウムシ、ヒグラシ鳴く(9月1日)、アカボシゴマダラ、シオヤアブ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、ツチイナゴ、クビキリギス、ホシササキリ、ジョロウグモ、オオミズアオ(城址)、シロテンハナムグリ、ヒカゲチョウ(城址)、オオウンモンクチバ、ナカグロクチバ、キマワリ(城址)リスアカネ雌、キンミズヒキ花多、ガガイモ実、オギ(減少)、しそ科花(イヌコウジュ)

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295
高齢社会での活動です。作業はほどほどに、お楽しみや探検を取り入れてやっていきます。会員の方も会員でない方も、無理をしないでご参加ください。カマなど道具は用意します。保険は個人で加入してください。

●赤塚ピオトープの手入れ

赤塚トンボ池 板橋美術館横の小さな池です。生き物たちのための土の池です。

バッタ広場 赤塚城址の郷土資料館の上あたり。生き物たちが暮らす草原ピオトープです。

活動日時 (第2日曜日と第4土曜日)

10月12日(日) 10時~11時半

11月9日(日) 10時~11時半

11月22日(土) 10時~11時半

集合場所 赤塚トンボ池

持ってくるもの 汚れてもよい服装(長袖、長ズボン)と汚れてもよい靴、作業手袋、

帽子、飲み物、虫よけ薬、

●日暮台公園と樹林地の観察 工事中のため休みます

●赤塚公園どんぐりまつり

10月25日(土) 10時から15時半(雨天翌日)

場所 赤塚公園サービスセンター前(噴水のある中央地区にあります)

いたばし水と緑の会も出展します。

展示「種はおもしろい」

緑の観察会「どんぐりの森で自然のたからものを探そう」

(午前10時、午後1時スタート 約1時間くらいの散歩です)

●どんぐりまつりのための準備観察会

日時10月11日(土) 10時 赤塚公園サービスセンター前集合

雨天の場合は10月18日(土)

●ボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ピオトープ(赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場)などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があります。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」(隔月発行)をお送りします(年会費2000円:振込先は表紙に記載)。